



▲新橋から栃木荘（旧ロイヤルホテル）を見る（昭和28年）



▲オリオン通り一ツ橋から南を望む（昭和28年）



▲新橋から東を望む（昭和29年）



▲オリオン通りから新橋（改修後）を望む（昭和30年）

藤部会長は回想します。
「それで、行政も本格的な対策を始めました。釜川と田川とをつないで、増水時に溢れさせず流しだすための放水路を建設しました。同時に、釜川を二層構造にして、下段を治水トンネル放水路、上段を水に親しめる人工河川として整備しました。これによって、釜川はようやく安心な河川になったのです」
ちなみに、二層構造の河川は、全国でも釜川が最初だったとのこと。

釜川は、利根川水系の河川である田川の支流にあたり、一級河川です。野沢町の弁天沼から流れ出て、宇都宮を南へ流れて中心市街地に達し、そこから東へ折れて、天神で田川に合流します。全長は約7.3キロです。
今回、昭和28年（30年頃の釜川の写真を、宇都宮まちづくり推進機構に提供してもらいました（写真「昭和の釜川」。現在の写真と比べると、釜川がどのように整備されていたかが、お分かりいただけるのではないのでしょうか。
昭和63年に二層構造が竣工しましたが、その前から釜川の景観整備工事も行なわれ、宇都宮の街を南北につなぐ遊歩道ができました。中でも中心市街地は親水公園の機能もつくわえられ、「釜川プ

ロムナード」の名称で、現在市民に親しまれています。
また、弁天沼から戸祭、中心市街地というルートは、ウォーキング愛好家の格好のルートともなっています。
「こうして整備されるまでの釜川は、正直な話、あまりいいイメージはなかったかも知れませんが、プロムナードができて生まれ変わったように思います。
それにしても、釜川を見ると都市インフラ整備の重要性をつくづく感じますね。氾濫を防ぐという市民生活に直結する点でもそうですが、まちづくりの意味でも、きちんと考えられた都市空間整備がどれだけ良い効果を与えるか、釜川は教えてくれる気がします」

釜川は、今年改修20周年を迎えます。ぜひ、季節の移ろいを感じながら川沿いを散歩してみてくださいか。

特定非営利活動法人
宇都宮まちづくり推進機構
魅力ある都心創造部会
部会長 安藤 英夫 氏
（㈱安藤設計代表取締役会長）



写真提供／宇都宮まちづくり推進機構、宇都宮観光コンベンション協会



特集1 釜川と中心市街地

夏の風景

夏には緑が川面に映え涼しげです

荒れる川から親しまれる川に

大雨や台風が来るたびに氾濫し、住民に大きな被害を与えていた釜川。中心部に長く住んでいる40歳代以上の方であれば、記憶に残っていることでしょう。整備され、散歩やイベントに活用されている現在の釜川からは、想像もできない過去の

姿です。

「昭和46年などは、釜川の沿岸があちこちで濁流に削り取られたり、護岸が崩れたりしたものです。昭和57年には泉町周辺では橋が水没するほどの増水で、道路が完全に水没しました。大雨が降ると、ふだんの優しい姿からは想像もつかないような、荒れた川になったのです」と、安

釜川が 創り出す、 宇都宮中心部 の未来

釜川改修20周年から スタートするまちづくり

宇都宮市中心市街地を流れる釜川にそって、遊歩道が整備され、市民の憩いの場になっています。改修20年を迎える釜川と、釜川プロムナードを舞台に、新たな「まちづくり」が生まれつつあります。釜川による中心部魅力アップに努めてこられた、宇都宮まちづくり推進機構魅力ある都心創造部会の安藤英夫部会長（㈱安藤設計代表取締役会長）にお話をうかがいました。



秋の風景

小さな「紅葉」が、釜川を紅く染めます

●秋のメインイベント
日時／11月18日（日）
午前10時～午後3時
場所／オリオンスクエア
テーマ／「釜川の過去、現在、そして未来」
内容／「釜川の過去の移り変わりや氾濫・大規模改修」「現在の釜川の魅力とおしゃれスポット」「これからの釜川」についてのトークセッションを、大型スクリーンを活用して実施します。
また、「釜川と中心市街地の過去の写真」や「釜川沿いの望ましい住宅の模型」などを展示し、釜川の全体像が分かる内容とします。



20周年記念イベント「ゆかた祭り」光景（8月25日）

さらに、ミニフォークコンサートや飲食ブースも予定しています。
※飲食ブースで、軽食やアルコールの販売も予定しています。

●その他の事業

- ・釜川の写真コンテスト
- ・釜川源流ウォーキング
- ・釜川ふれあい祭り、ふれあい文化市
- ・釜川20周年記念事業誌の作成
- ・釜川沿いマップの作成 など

このような盛りだくさんの内容で釜川の成人式を祝うとともに、新しいまちづくりを提案して、次の20年のスタートとしていきます。

釜川を活用してまちづくりを

安藤部会長の所属する「魅力ある都心創造部会」は、その名のとおり、宇都宮のまちづくりを考える部会です。部会か



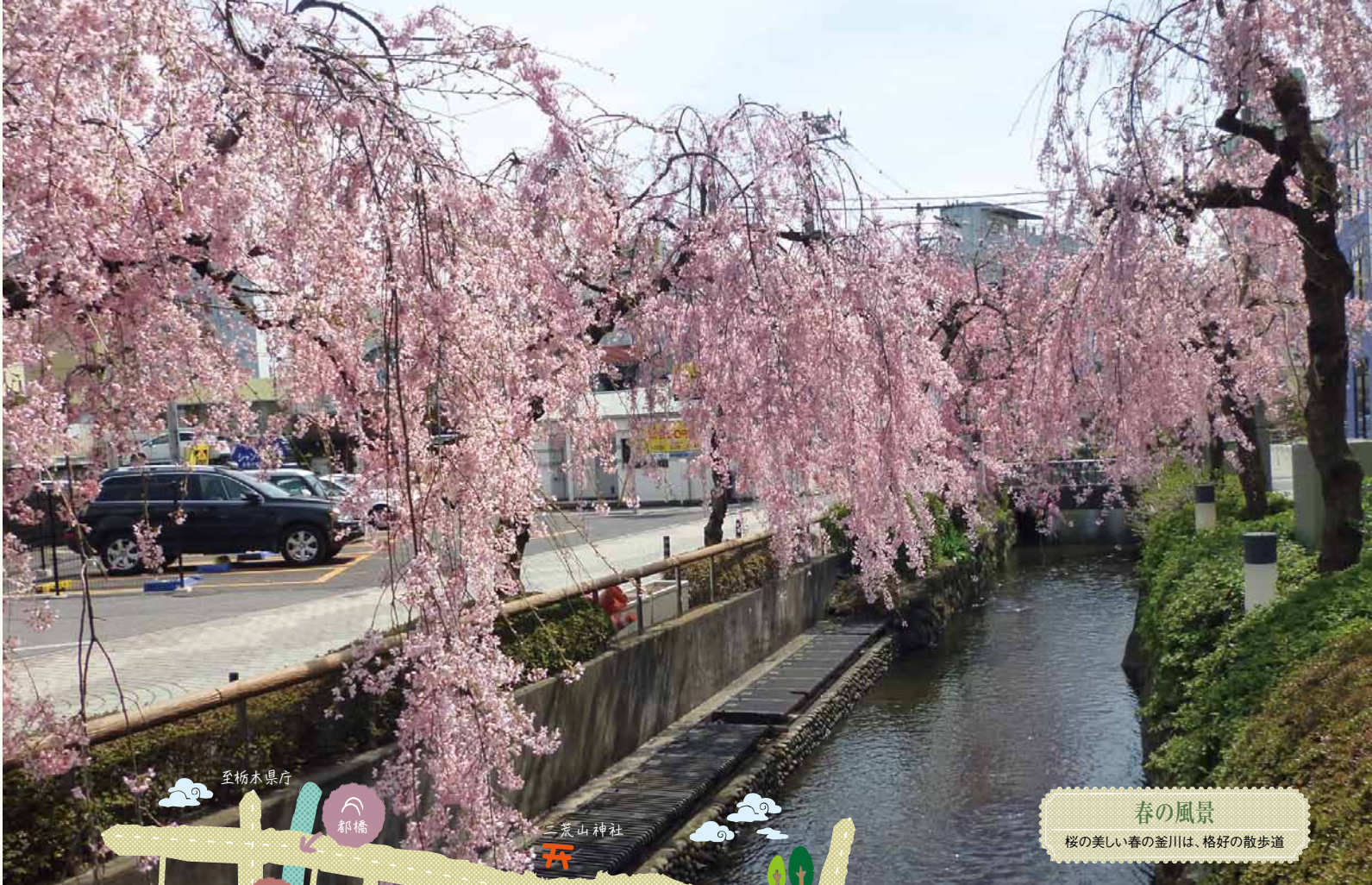
春夏秋冬を通じて美しい、釜川の夜景

「釜川と大谷石は、宇都宮の大切な財産。守り育てることが、宇都宮の未来創造につながると思っています」
できること、やれることから一つずつ実現していきたいと夢を話す安藤部会長。

ら発生した特別委員会には「釜川活用特別委員会」と「歴史的建物活用特別委員会」があります。
「私どもの部会では、まちづくり全体を話し合い、活動しています。昨年と今年は、釜川の20周年事業について、多くの時間を割いています。単に『記念だから』『イベントだから』ということではなく、これを釜川を活用したまちづくりのきっかけにしたいという想いがあるからです」
安藤部会長の言葉にあるとおり、秋のイベントのトークでは「釜川の未来」を語るコーナーで、景観や中心市街地居住などについて、映像や模型を使った提案を行ない、それを元に活発な話を繰り広げて行くことになっています。
「景観リニューアル案については、釜川活用特別委員会で検討してきました。その一環でもあるアイデアが『釜川百花苑構想』で、釜川にさまざまな花を植えて、季節ごとに鮮やかな景観を創造しようという試みです。昨年8月には、宇都宮市長あて

にアイデア提出しました」
もう一つの特別委員会「歴史的建物活用特別委員会」は、大谷石建造物の調査を行なっており、近年の宇都宮市における大谷石蔵保存、活用の流れの土台を作ってきました。
安藤部会長は、これからの釜川について、「都市の活性化には、回遊性の確保が重要。釜川プロムナードは大通り、オリオン通りなどをつないで、市内回遊性を作りだしています。ですから、釜川をいかに活用していくかは、宇都宮の未来を創造する重要なキーになると思います」
その中で、安藤部会長は学生、若者とのコラボレーションに期待を寄せています。

問合せ／ 特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構 ☎632-8215



春の風景

桜の美しい春の釜川は、格好の散歩道



釜川付近のMAP

●20周年記念イベント
今年は、平成4年の改修竣工から、20周年の節目の年となります。宇都宮まちづくり推進機構でも、記念行事を予定しています。
「11月に完成して20年になるので、『20年＝成人式』と位置づけて、行事を計画しています」
すでに、8月には夏のイベントを開催、大いに盛り上がりました。

●夏のイベント（8月25日実施）

・鮎のつかみ取り

釜川のじゃぶじゃぶ池に鮎を放流し、子供たちにつかみどりをしてもらいました。
また、那須の黒羽ゆづかみ農村地域活性化協議会の協力で、鮎の塩焼きや農産物の販売を行ないました。

・ゆかた祭り

釜川沿いに縁日屋台やビアガーデンなどを設置し、夏祭り気分を盛り上げました。浴衣の参加者へのサービスや記念写真撮影なども行ないました。
※当日は釜川プロムナード沿いの店舗などが行なつた「KAMAGAWA DEPARTMENT」や、ふれあい広場付近での「大谷石のキャンドル」点灯なども行なわれ、たくさんの人が集まりました。



20周年記念イベント「鮎のつかみどり」光景（8月25日）
（下野新聞社8月26日付けより）